

地域方言を題材とした高大連携による教育活動の実践 —徳島県立池田高校探究科と徳島大学総合科学部の取組から—

村上敬一¹・田島幹大²・吉平綾加³

1 はじめに

本発表では、徳島県立池田高校探究科（以下、池田高校）と徳島大学総合科学部地域言語論研究室（以下、徳島大学）との高大連携による、徳島県三好市方言を題材とした教育活動の実践を報告する。

池田高校は、地域社会研究に係る「課題研究」のひとつとして、所在地である三好市の方言を継続的に取り上げている。徳島大学でも、三好市など県西部の若年層方言の研究を継続中である。2013年からの徳島県内の中学・高校調査を契機として、2016年度から池田高校と徳島大学は、高大連携の一環として共同研究を実施することとなった。本発表は、それらの成果について、進行中のものも含めて報告するものである。

2 研究の背景

2.1 池田高校の「課題研究」

徳島県立池田高等学校の所在地は、三好市池田町である。2016年度の全校生徒は553名（男子249名 女子304名）で、普通科と探究科の2学科が設置されている。探究科は学年に1クラス35名で「探究的学習」を取り入れた特色ある教育活動を行なっている⁴。

探究的学習の具体的な取組のひとつに「課題研究」がある。課題研究とは、大学での専門研究につながる探究力の育成を目指すものである。大学等の研究機関との連携のもと、フィールドワークやゼミ形式の授業など様々な形式の学習形態が導入され、研究が進められている。2015、16年度の研究題目には、以下のようなものがある。

- ・ 近現代の蚕糸業からみた徳島県の政治・経済（第60回全国学芸サイエンスコンクール金賞）
- ・ 三好市における観光の可能性について
- ・ 中央構造線と私たちの生活
- ・ 和紙製造工程における木灰の役割
- ・ THE RIVER FACE ～ラフティングの強さの秘訣に迫る～
- ・ 三好地域のタバコの歴史

¹ むらかみ けいいち(徳島大学総合科学部) murakami.kei@tokushima-u.ac.jp

² たじま みきひろ(徳島県立池田高等学校)

³ よしひら さやか(徳島県立池田高等学校)

⁴ <http://ikeda-hs.tokushima-ec.ed.jp/探究科/>

2.2 徳島大学の「県内中学・高校調査」

2013年度より、徳島大学では徳島県内の中高生を対象として各学校に出向き、アンケート調査を実施してきた。調査結果については、卒業論文を中心にまとめている。池田高校は、早い時期から調査に参加、協力している。

3 調査地域の概観

3.1 徳島県三好市の概況

池田高校の所在地である徳島県三好市は、2006年3月に三好郡池田町、三野町、山城町、井川町、西祖谷山村、東祖谷山村が合併して発足した。四国のほぼ中央に位置し、北を香川県、西を愛媛県、南を高知県に接し、古くから交通の要衝として栄えた地域である。面積は721㎢で、東京23区よりも100㎢ほど広く、その9割は山林である。人口は、平成22年度の国勢調査で3万人を割り込み、過疎化が進行している⁵。

3.2 三好市の方言

図1に示す徳島県の方言区画⁶において、三好市の平坦部の方言は上郡（かみごおり）方言に分類される。旧池田町、旧三野町、旧井川町の方言がここに該当する。阿讃山地を挟んだ香川県との交流が盛んな地域で、アクセントは讃岐式、文法や語彙でも共通点が多い。

三好市の山間部の方言は、山分（さんぶん）方言に分類される。旧東西祖谷山村、旧山城町の方言がここに該当する。隣接する土佐方言との共通点をもつほか、語彙や文法に古態を色濃く残している。



● 図1 ● 徳島県の方言区画図

⁵ 三好市ホームページ <http://www.city-miyoshi.jp/docs/2010092100531/>

⁶ 『日本のことばシリーズ36 徳島県のことば』より

4 2016年度の活動

4.1 方言調査・研究に関わるもの

2016年度に、池田高校と徳島大学の共同で実施した方言調査、研究に係る活動は、以下の通りである。

6月23日には、徳島大学によるアンケート・談話収録調査⁷（徳島大学調査）を実施のち、9月13日、20日には、池田高校探究科の課題研究について方針を確認し、高校生の手による方言語彙・語法のアンケート・面接調査票（池田高校調査）を作成し、高校生から高年層まで、地域方言の世代差を明らかにし、その結果をいくつかの実践的な取組につなげていくこととなった。



上：池田町公民館 下：三野町青蓮寺

10月から12月にかけては、三好市池田町、三野町、山城町において高年層を対象とした面接調査と、池田町教育委員会の協力による中年層のアンケート調査、池田高校生を対象としたアンケート調査を実施した。これらの調査によって、三好市内要所の方言について、世代差を知るための基礎資料を得ることとなった。図2において、12項目について高校生と、20代から60代の世代差をみると「かんまん」（構わない）「つまえる」（片付ける）などには差がみられない一方で、「へらこい」（ずるい）「かいて」（机などを持ち上げて運んで）は、20代から60代以上と比べて高校生の使用が少なくなっている（高校生調査の結果は、紙幅の都合上、当日の発表に譲る）。

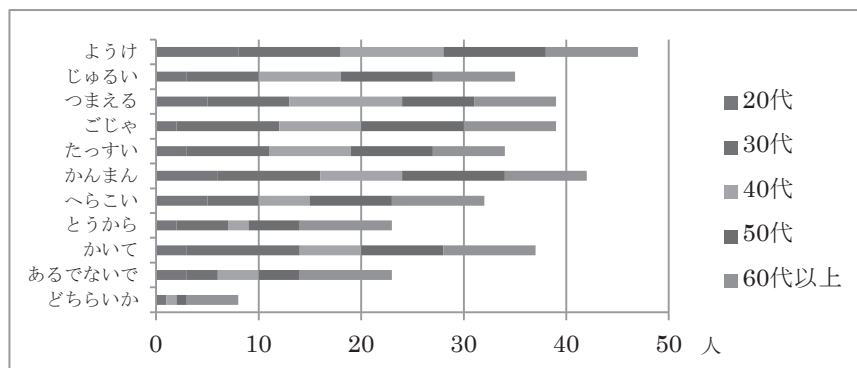


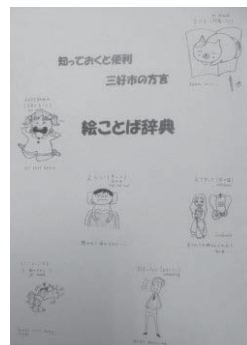
図2 「三好市方言」の世代差（池田高校調査）

⁷ 「コホート系列法による若年層方言の動態研究」(科研費・挑戦的萌芽研究 代表:村上敬一)

4.2 方言調査の結果を生かした成果

① 『絵ことば辞典』の作成

調査項目を活用し、幅広い世代に親しみを持って知ってもらうための活動として『知っておくと便利 三好市の方言 絵ことば辞典』を作成した。90項目を取り上げそれぞれに使用例（例文）、相当する絵、英訳を掲げた。地域での生涯学習や、小中学校での活用を通じた社会活動に生かしていきたいと考えている。



② 「方言パンフレット」の作成

2011年3月の東日本大震災を受けた、東北大学方言研究センターによる震災と方言をめぐるさまざまな課題の解決、地域支援の取組はよく知られるところである⁸。2016年4月の熊本地震に際しても、さまざまな救援活動を支援するために、方言の立場から「熊本支援方言プロジェクト」が展開された⁹。

徳島県内に目を向けると、三好市を含む吉野川北岸には中央構造線が横断しており、沿岸部では高い確率で南海地震が想定されるなど、地震への備えが急務である。方言研究の立場から、地域貢献の一環、地震への備えとして、東北大学などの取組に倣い、県西部方言の「方言パンフレット」を作成中である。

2017年10月には三好市の吉野川流域で「ラフティング世界選手権 2017」が開催される。国内外から多くの参加者、観光客が見込まれる中で、地域紹介の一環として、三好市の方言を紹介するパンフレット類の作成も計画中である。『絵ことば辞典』の活用も視野に入りたい。

5 まとめ ー活動の意義を考えるー

本発表では、池田高校と徳島大学との高大連携による、徳島県三好市方言を題材とした教育活動の実践を報告した。活動の実践によって、自分たちの方言を当事者の立場から追究するという研究面での意義と、研究の結果を社会活動に生かし、地域の社会活動につなげていくという社会的な意義をみいだすことができた。

さらには、方言の研究を通じて自分の生まれ育った地域社会を理解し、高い志や豊かな人間性の育成につなげることで、教育的な意義も持つことになる。研究的、社会的、教育的な意義をふまえつつ、今後とも高校と大学の連携による教育活動の実践を続けていきたいと考えている。

⁸ 『方言を救う、方言で救う 3.11 被災地からの提言』
東日本大震災と方言ネット <https://www.sinsaihougen.jp/> など

⁹ 熊本支援方言プロジェクト <http://www.fukujo.ac.jp/university/other/hougenpj.html>